（2）区のまちづくり目標

○　区のまちづくり目標については，「区のまちづくり目標総括シート」と「事業一覧シート」によって，区ごとにまとめている。

・　「区のまちづくり目標総括シート」では，目標の実現に向けた「現状と課題」，「今後の取組みの方向性」をまとめている。
（「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。）

・　７区で共通する課題など全市的課題については，分野別目標の５１施策の「施策評価」で整理されているため，「区のまちづくりの目標」では，区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

＊事業の進捗状況の欄は，原則として，「活動の指標」，「成果の指標」の達成率を基に，次の「ａ」，「ｂ」，「ｃ」，「ｄ」または「－」のいずれかを記載している。

「ａ」・・・100％以上　　「ｂ」・・・75％以上100％未満
「ｃ」・・・50％以上75％未満　　「ｄ」・・・50％未満
「－」・・・数値が把握できないなど判定不能のもの

※指標を設定していない事業については，「事業の進捗状況に関する補足」の欄に説明を記載している。

＊　年度や年次については，平成28年度であれば「H28n」，平成28年であれば「H28」等と表記している。

＊　平成28年事業費は，見込額を記載している。

区のまちづくり目標

東区	歴史と自然の魅力にあふれ，人が活躍し，活力を創造するまち・東区～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし，みんながいきいきと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い，活力を創り出すまち ○歴史・文化，自然の魅力を生かし，新しい可能性を生み出すまち

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	東区	40,553	(15.2%)	192,002	(71.9%)	34,448	(12.9%)	269,307
H17	東区	38,850	(14.3%)	190,269	(70.2%)	42,065	(15.5%)	274,481
H22	東区	41,272	(14.3%)	197,419	(68.4%)	50,090	(17.3%)	292,199
H27	東区	43,380	(14.3%)	196,831	(65.1%)	62,089	(20.5%)	306,015
H28	東区	44,016	(14.4%)	198,223	(64.6%)	64,442	(21.0%)	310,395
	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	東区	6,124	(5.4%)	46,878	(41.0%)	114,366
H17	東区	8,125	(6.9%)	47,262	(40.1%)	117,887
H22	東区	10,653	(8.0%)	56,811	(42.7%)	133,024
H27	東区	13,590	(9.6%)	61,734	(43.6%)	141,506
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

安全で安心して暮らせるまち

【現状】と【課題】

・地域防災については，避難訓練，土のうの計画的な整備を継続し，様々な災害に備えた地域の避難体制を構築する必要がある。災害時避難行動要支援者への支援については，H28.7月に策定された「福岡市避難行動要支援者に関する取組指針」を踏まえた体制づくりが必要である。

・地域防犯については，地域の安全・安心マップの継続的な更新や，多発しているニセ電話詐欺への対策として，警察と連携した市民啓発等の取組みを引き続き推進する必要がある。交通安全運動・飲酒運転撲滅は，飲酒運転による交通事故発生件数がH28年8件（前年比-4件）と微減しているが，引き続き取組みが必要である。

・セアカゴケグモ個体数は，減少傾向にあるものの，発見場所は増加，広域化しており，今後も定期的な調査・駆除を行うとともに，市民への啓発を継続して実施し，市民の安全安心を確保する必要がある。

【今後】

・福岡市地域防災計画の見直しを踏まえ，様々な災害発生時における高齢者や障がい者等に対する避難支援体制の構築や地域住民同士助け合う仕組みづくりを支援するほか，安全で快適な生活環境維持のための取組みを進める。

・地域における防犯活動を支援するとともに，飲酒運転撲滅運動等を地域と連携して推進する。また，放置自転車対策やごみの不適正排出の監視等モラル・マナーの向上にも取り組む。

・交通ネットワーク整備や歩行者や自転車利用者の安全を確保する環境の整備を進める。

子どもが健やかに育つまち

【現状】と【課題】
・児童虐待ハイリスク家庭への対応について，家庭問題の複雑・多様化がみられるため，よりきめ細やかな対応が必要である。
・子育てに不安のある保護者に対し，育児相談等を行い，保健師による家庭訪問，母子巡回健康相談等を行った。また，地域子育て支援会議を校区毎に実施し，地域の子育てネットワークづくりや，子育て交流サロン・育児サークルの支援を行うとともに，子育て教室やこどもプラザ等において子育て支援の取組みを行った。今後も子育て家庭が孤立しないよう，地域・行政でともに見守り支える取組みを推進していく必要がある。

【今後】
・「要保護児童支援地域協議会」の構成団体と密に連携して，ハイリスク家庭への支援，児童虐待の予防・早期発見・再発防止に向けて取り組む。
・妊娠期から切れ目なく支援できるよう，ライフステージに応じた関係機関との連携や，育児サークル，子育て交流サロン等での支援を行う。また，子どもが安心して遊べる環境づくりやスポーツなどの体験ができる機会を提供する。

人を大切にし，みんながいきいきと活躍できるまち

【現状】と【課題】
・地域コミュニティの活性化のため，自治協議会等の研修会等を支援したほか，市民提案の事業支援や大学と連携し，地域の課題等を調査・研究する事業等を行った。
・地域活動に参加しない住民が多く，地域づくりの担い手が固定化・不足している中，地域の絆づくりが必要である。
・東区における外国人の人口は約9,500人と７区で最も多く，外国人居住者に対するサポート等「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指した取組みを進める必要がある。
・地域包括ケアシステムの推進のため，在宅医療・介護等の連携を進めるブロック会議，各レベルでの地域ケア会議を実施した。在宅医療・介護・地域がより有機的に連携し，地域包括ケアシステムを次のステップに進めるには，校区等各レベルでの地域ケア会議をさらに充実する必要がある。
・生涯にわたり元気で自立した生活を営むことができるよう，健康寿命を伸ばす取組みを進める必要がある。

【今後】
・自治協議会等の地域活動を支援するとともに，企業，NPO，大学等も共に協力し地域の未来を創り出していく，共創のまちづくりを進める。
・外国人が地域住民と共生し，共に暮らしやすい環境づくりに向け，情報発信の強化及び地域住民との交流を促進するなど，誰もが思いやりを持ち，全ての人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくりを進める。
・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう，地域包括ケアシステムのさらなる充実を図るなど地域で支えあう取組みの支援を行なう。
・健康寿命を伸ばすため，地域・各種機関・行政等が連携して，特定健診・特定保健指導の受診率向上に取り組む。

新しい都市機能を担い，活力を創り出すまち

【現状】と【課題】
・香椎駅周辺区画整理事業が進む香椎駅周辺において，地域，NPO，企業，行政で構成する「香椎賑わいづくりの会」を中心に，香椎駅周辺における様々なイベント等を実施した。今後も界隈性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを推進する必要がある。
・九州大学箱崎キャンパス跡地等においても，地域，大学，企業，ＮＰＯ，行政が連携してまちづくりを進める必要がある。

【今後】
・土地区画整理事業が進む香椎駅周辺やなみきスクエア周辺の千早地区は，地域，大学，企業，行政等が連携を図りながら，一体的な拠点地域の形成に取り組む。
・九州大学箱崎キャンパス跡地は，地域，大学，企業，ＮＰＯ，行政が連携してまちづくりを進める。

歴史・文化，自然の魅力を生かし，新しい可能性を生み出すまち

【現状】と【課題】
・「志賀島活性化構想2015」の推進のためには，地域への支援が必要である。また，志賀島等東区の魅力を発信するため，SNS等を活用した情報発信の充実が必要である。
・立花山・三日月山については，登山人口の増加から登山道の保全や登山情報発信等のニーズが高まっており，引き続き登山道の保全・整備や市民への情報提供が必要である。
・なみきスクエアオープニングイベントを開催した。今後もなみきスクエアを核とした，芸術文化活動や地域交流への支援，効果的な情報発信を推進する必要がある。

【今後】
・東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資源，水辺や緑などの自然環境，志賀島等の地域の魅力・特色を生かしたまちづくりへの支援や情報発信を行う。
・「なみき芸術文化祭」の開催等なみきスクエアを核として，にぎわいにあふれ，多くの人が交流し，芸術文化を感じられるまちづくりを進める。

2　区事業

(1)地域防災・防犯対策事業

目的	1．犯罪等のない安全で住みやすい校区にする。 2．水害による被害をできるだけ最小限に留める。	H28事業費	3,631　千円
		H29事業費	3,798　千円
対象	1．安全安心マップ 東区内29校区全て 2．土のう配備の適正管理 ３校区(松島,筥松,多々良)	担当	東区総務部総務課
実施内容	1．安全安心マップ （1）29校区の内，2校区（香椎校区，筥松校区）で安全安心マップの作成・更新を実施 （2）全29校区で安全安心マップの作成が完了し，今後は継続的に更新 （3）安全安心マップには，避難場所及び防災・防犯・交通安全の面からの危険・注意箇所等を表記 2．土のう配備の適正管理 松島校区の劣化している土のう（3,000袋）を整備するとともに，筥松校区の土のうについて，設置場所の見直し等を実施		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	安全安心マップ作成校区件数（新規・更新含む）	2	2	100%	a
成果の指標	３校区の水害による被害発生件数	0	0	100%	
補足	－				

(2)地域の子育てネットワークづくり

目的	東区に住む子育て中の母親が，孤立せず，地域の見守りの中で，つながりを持ちながら安心して育児が出来る。	H28事業費	97　千円
		H29事業費	96　千円
対象	乳幼児を持つ子育て中の親子とその地域	担当	東区保健福祉センター地域保健福祉課
実施内容	1．「地域子育て支援会議」の開催 8校区で8回開催 2．「子育て情報ガイド」の配布 3．育児支援ネットワーク会議で医療機関（産科・小児科）と子育てに関する情報共有及び連携 4．子育てサロンサポーター研修会の実施（17サロン参加）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	地域子育て支援会議の実施	8	8	100%	a
成果の指標	－	－	－	－	
補足	H28年から，こども未来局こども育成費で実施。（区事業としては，H27年で終了）				

(3)長野県安曇野市との交流事業

目的	安曇野市との青少年の相互交流事業を通じて，東区民の連帯意識の高揚を図り，コミュニティづくりの推進に資する。	H28事業費	569　千円
		H29事業費	1,658　千円
対象	区内に住む 小学５年生～中学２年生	担当	東区総務部企画振興課
実施内容	東区区民フェスティバル実行委員会の事業として，安曇野市との青少年交流事業を実施（H28派遣，H29受入）。 ※交流事業は隔年で派遣，受入を実施しているため，事業費は年度で変動する。 ・市政だより等により公募した東区の青少年10名を3泊4日の日程で安曇野市へ派遣し，安曇野市の青少年7名との集団生活や体験を通じて郷土の歴史や文化，風俗，風習などを学びあい，互いの生まれ育ったまちへの郷土愛を培った。 （活動内容：阿曇族にゆかりが深い穂高神社訪問，豊科郷土博物館での各種体験活動，工場見学等） ・28年度から交流事業に参加した東区子ども会育成連合会ジュニアリーダーを中心に，次年度以降の交流事業時に協力を呼びかけ，交流事業に参加した青少年の経験を活かす仕組みを作った。今後，東区子ども会育成連合会と連携した活動を検討している。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	青少年参加人数（東区・安曇野市合計）	20	17	85%	c
成果の指標	過去の参加者の協力人数（東区・安曇野市合計）	10	6	60%	
補足	－				

(4)地域の担い手パワーアップ事業（H25nまでは「地域コミュニティ担い手発掘・育成事業」として実施）

目的	地域のまちづくりを担う自治協議会等の役員の育成と新たな担い手の発掘ができ，コミュニティの活性化・組織強化が図られる状態にする。	H28事業費	1,918　千円
		H29事業費	2,186　千円
対象	自治会・町内会 各種団体の関係者	担当	東区総務部地域支援課

実施内容

1　公民館の地域力応援プログラム
「生涯学習・社会教育の基礎知識」「社会教育関係職員に期待される資質能力と役割」をテーマに研修会を開催
第１回　日時　H28.11.15（月）13:00～16:00
内容　社会教育施設としての公民館～その基礎を考える～」
講師　九州大学大学院社会教育学准教授　岡　幸江
参加者数　51名
第２回　日時　H29.1.16（月）9:30～11:30
内容　「提言≪今日の福岡市における社会教育のありかたについて≫における今後の公民館の役割について」
講師　福岡大学教育・臨床心理学科准教授　副田　祥史
参加者数　48名
2　地域の担い手パワーアップ事業
（1）地域の担い手スタートプログラム（新たな地域の担い手となる方等を対象にした講座や交流）
実施公民館　５館（名島・香住丘・青葉・千早西・三苫）
（2）地域の担い手ネクストプログラム（地域活動のベテランの方等を対象にした講座等）
実施公民館　３館（八田・若宮・青葉）
（3）きっかけづくりプログラム（気軽に公民館に来館いただくためのイベントや環境づくり）
実施公民館　７館（箱崎・千早・奈多・青葉・東箱崎・香陵・松島）

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	事業を実施した公民館数及び事業数	13館13事業	13館15事業	100%	a
成果の指標	－	－	－	－	
補足	H26nからH27nは自治会コミュニティ応援事業として実施。				

(5)大学・地域まちづくり事業（東部地域三大学連携事業）

目的	東区や地域の魅力・資源を評価し，地域課題を把握し，地域に愛着・誇りを持って地域課題の解決に向け活動している。	H28事業費	400　千円
		H29事業費	400　千円
対象	地域住民	担当	東区総務部企画振興課

実施内容

○東部地域三大学連携推進委員会（九州産業大学，福岡工業大学，福岡女子大学）へ事業を委託
○事業概要
「超高齢・長寿社会を支える地域力を考える～福岡市東区のケース～」をテーマとしたシンポジウムの開催
日時：H29.3.11(土) 13:00～15:00
場所：九州産業大学　１号館S201番教室
発表会参加者：約150名　（地域住民，市関係課）

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	公開講座等を開催した回数	1	1	100%	a
成果の指標	－	－	－	－	
補足	－				

(6)東区いきいきまちづくり提案事業

目的	様々な分野で自治協議会だけでなく，多様な主体が連携・共働し，地域・まちづくりに取り組む地域となっている状態にする。	H28事業費	1,190 千円
		H29事業費	2,638 千円
対象	地域団体 ＮＰＯ 企業	担当	東区総務部企画振興課

実施内容

事業提案を公募し，事業評価会での審査を踏まえ補助事業を決定（１次審査：書類審査，２次審査：公開プレゼンテーションによる審査）

・助成団体数　：６団体
・助成金交付上限額：200千円（１団体あたり）
・助成事業　　：
①アートベンチによる潤いのあるまちづくり事業
②ふれあい環境教室
③みんなの居場所ぽあんの樹「２丁目branch」
④本を通じて人と人を繋ぐ「古本かえっこ市」
⑤「唐津街道箱崎宿」お宝さがし！
⑥生ごみ資源化

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	補助金の助成件数	12	6	50%	c
成果の指標	補助金への申請件数	15	10	67%	
補足	－				

(7)文化フェスティバル事業（H27nまでは芸術と文化の香りあふれるまちづくり推進事業として実施。）

目的	東区の区民，芸術文化団体，企業，学校，行政など多様な主体が，文化芸術活動の活性化に向けて主体的に取組みを進める。	H28事業費	5,954 千円
		H29事業費	2,400 千円
対象	芸術文化活動者及び芸術文化に関心がある区民	担当	東区総務部総務課

実施内容

平成28年度は東区千早に開館した「なみきスクエア」のオープニングイベント（H28.6.4～H28.6.5）において，主に東区を中心に活動するプロ若しくはセミプロの音楽家や文化活動家による，ホールでの音楽及び演劇・パフォーマンスや芸術作品展示会を行った。

①なみきホール　…　音楽，演劇・パフォーマンス
②ひまわりひろば　…　芸術作品展示会
③東図書館　…　絵本の読み聞かせ
④並木広場　…　飲食物の出店，音楽・パフォーマンス

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	「なみきスクエア」オープニングイベントの参加者数	10,000	20,000	200%	a
成果の指標	市民センターの年間利用者数	150,000	162,848	109%	
補足	－				

区のまちづくり目標

博多区	お互いが支え合い，安心して人が暮らし，歴史と伝統が息づくまち・博多区
取組みの方向性	○お互いが支え合い，交流し，健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	博多区	22,249	(12.3%)	133,247	(73.8%)	24,958	(13.8%)	180,722
H17	博多区	22,015	(11.6%)	138,342	(73.1%)	28,898	(15.3%)	195,711
H22	博多区	21,276	(10.4%)	148,740	(72.8%)	34,371	(16.8%)	212,527
H27	博多区	21,491	(10.0%)	151,343	(70.4%)	42,134	(19.6%)	228,441
H28	博多区	21,796	(9.9%)	154,091	(70.2%)	43,680	(19.9%)	233,036
H28	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	博多区	6,794	(7.5%)	48,177	(53.1%)	90,776
H17	博多区	8,286	(8.4%)	54,166	(55.0%)	98,573
H22	博多区	11,512	(9.3%)	79,610	(64.2%)	124,070
H27	博多区	15,030	(10.8%)	92,551	(66.8%)	138,629
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

お互いが支え合い，交流し，健やかに暮らせるまち

【現状】と【課題】

・単身世帯の割合が指定都市で最も高い福岡市（H27国調：49.7%）にあって，博多区は7区で最も高い（同：66.8%）。また，5年間の現住所居住率が46.7%（H27国調）と転出入者が多く，共同住宅（マンションやアパートなど）に住む世帯割合が87.6%（H27国調）と都市型の地域であり，地域コミュニティの希薄化が見受けられる。
・高齢者数も増加傾向にあり，特に単身高齢者世帯数が急増している。（H22国調：11,512人→H27国調：15,030人　5年間で約30%増）
・超高齢社会の到来に備え，高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制（地域包括ケアシステム）づくりが求められている。
・核家族化・少子化が進む環境の中で，育児不安を抱えている母親が増えており，安心して子育てができる環境づくりが求められている。
・博多区は特定健診受診率が7区で最も低く（H27ｎ：18.2%），健康意識の醸成や健康寿命の延伸に向けた積極的な取り組みが求められている。

【今後】

・地域との「共創によるコミュニティづくり」を進めるため，住民同士の交流促進や，自治意識の醸成を図る。また，地域の特色を生かした魅力ある地域づくりの支援を継続していく。
・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制（地域包括ケアシステム）の構築を目指し，医療と介護の連携強化を図るとともに，地域において住民による支え合い助け合いの仕組みづくりを推進する。
・相談・支援体制を強化し，児童虐待防止の取組みを進める。また，子育て支援コンシェルジュ等の活用により保育施設等の待機児童の解消を図る。
・若い頃からの健康づくりや，年代に応じたロコモ予防・認知症予防の取り組みを推進する。

安全で安心して暮らせるまち

【現状】と【課題】

・交通事故発生件数，犯罪認知件数，自転車の放置台数，放置率が７区で最も多く，事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。特に，放置自転車は，博多駅周辺や中洲地区に多く見られる。

＊交通事故発生件数：2,454件（前年比401件減）
＊犯罪認知件数：4,018件（前年比75件減）
＊自転車の放置率（H28.10）：4.9％（前年同月比2.0ﾎﾟｲﾝﾄ減）

・災害対策基本法や国の「避難行動要支援者の避難行動に関する取り組み指針」を踏まえ，地域住民や各種団体が参画・協力した「共助」による避難支援が円滑に実施されるよう，自主防災会の充実強化を図りながら，各自治協議会にあった方法を協議し取り組みを進めていく。

・生活道路について，損傷が激しい箇所数は７区で最多となっており，博多区に約４割が集中していることから，計画的な維持修繕が必要である。

【今後】

・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付（H28n 56ヶ所），歩行空間の整備や交通安全施設の整備など，安全で快適な生活基盤の整備を実施する。

・各地域で行っている安心安全マップの更新や防犯教室（H28n　44回開催）をはじめとした地域の防犯活動を支援していく。

・平成29年度に実施される新制度「避難行動要支援者名簿」について各種団体（自治協議会，防災会会長，民生委員・児童委員，区社会福祉協議会等）に対して周知を図る。

・博多駅周辺や夜間の中洲地区において自転車利用者への指導・啓発や放置自転車の即日撤去により，放置自転車を減少させる。また，既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。

・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H26.3策定）に基づき，施設の点検・修繕を計画的に行うことで，施設の延命化を図るとともに，費用対効果の高い施設の維持・管理に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

【現状】と【課題】

・寺社や名所旧跡，伝統ある祭り，伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多部において，これらを生かした事業に取組み，その魅力を大きく高めてきた。また，九州新幹線全線開通以降，H28のKITTE博多，JRJP博多ビルに至る一連の再開発や，エリアマネジメント団体による賑わいの創出などにより，来訪者が大きく増加している。今後も，地域と連携し，回遊性の向上や歴史文化資源の魅力の発信力強化を図っていく必要がある。

＊JR博多駅乗降者数(H28)103,470千人（前年比3,235千人増）
＊博多ガイドの会案内人数　定点ガイド7,816人，派遣ガイド786人，
　地域密着型企画ガイド980人
＊博多ライトアップウォーク延べ入場者の推移
　H25：91,101人，H26：124,521人，H27：116,214人，H28:113,610人

【今後】

・博多ライトアップウォークや博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実などにより，歴史や伝統文化を生かし，地域・企業・行政が連携して，集客力の向上と地域の活性化を図る。

・歴史的景観と調和の取れた道路整備などにより，回遊性の向上を図る。

2　区事業

(1)放置自転車対策事業

目的	道路及び公園利用者の安全で快適な空間の確保及び都市景観の向上の一つの方策として，自転車利用者の自転車放置を防止する。	H28事業費	7,623　千円
		H29事業費	7,236　千円
対象	自転車利用者	担当	博多区地域整備部　自転車対策・生活環境課
実施内容	・博多駅周辺や中洲地区などの放置常習箇所に街頭指導員を配置し，自転車利用者への指導・啓発や駐輪場の利用を案内。中洲地区は，夜間帯に街頭指導員を配置した。（通年） ・放置自転車の即日撤去を実施した。 うち中洲地区24回（昼11回，夜13回），博多駅地区35回（博多口16回，筑紫口19回） ・路面シートの作成・貼付：56箇所（雑餉隈駅周辺地区，川端地区） ・博多駅地区駐輪場案内チラシを作成・配付した。 ・中洲地区駐輪場案内チラシを作成・配付した。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	－	－	－	－	a
成果の指標	博多区内放置率の減少ポイント（27年度放置率6.9%	1.9	2.0	105%	
補足	放置率　6.9%(H27)→5.0%(H28目標)＝1.9ポイント 6.9%(H27)→4.9%(H28実績)＝2.0ポイント				

(2)地域防犯推進事業

目的	犯罪が起きにくい地域づくり，犯罪に遭いにくい方法を習得し，地域住民への反映を図る。	H28事業費	1,118　千円
		H29事業費	1,141　千円
対象	地域の防犯組織	担当	博多区総務部総務課
実施内容	・博多警察署や市民局の協力を得，防犯教室を44回実施した。 ・博多警察署や博多防犯協会の協力を得，博多区地域防犯活動研修会を実施した。 ・地域に対し，街頭犯罪防止に向けた物資支援を20校区実施した。 ・ふっけい安心メール・生活安全課・警察・地元住民等からの情報網を駆使し，地域への情報提供及び登下校時のパトロールを実施した。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	防犯教室等の実施	44	44	100%	b
成果の指標	防犯物資の支援	23	20	87%	
補足	－				

(3)博多ライトアップウォークの推進

目的	長い歴史や豊かな伝統文化を有する博多部において，更なる魅力の創出と回遊性の向上を図り，集客力向上とまちの活性化を図る。	H28事業費	15,446　千円
		H29事業費	10,000　千円
対象	市民及び観光客	担当	博多区総務部企画振興課
実施内容	・H28.11に5日間，博多部の寺社等13会場をライトアップした。 ・来訪者が集中していた御供所地区以外のエリアで，会場数を3会場増やすことにより，混雑緩和と回遊性の向上を図った。 ・「博多織」をコンセプトにライトアップを行い，来場者の満足度の向上を図った。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	延べ入場者数	100,000	113,610	114%	a
成果の指標	－	－	－	－	
補足	天候不良等により，入場券売り上げが見込みを大幅に下回ったため，天候リスクを想定した事業計画を策定する必要がある。				

(4)地域密着型の集客・まちづくり

目的	「来街者と地域住民の両者が潤い元気なまちづくり」を理念に，博多部の企業や地域住民と連携し，地域振興や地域活性化を図る。	H28事業費	5,551 千円
		H29事業費	5,550 千円
対象	市民及び観光客	担当	博多区総務部企画振興課
実施内容	・博多の魅力発信会議の運営 　地域住民・企業・行政で構成する会議を定期的に開催し，「博多秋博」広報キャンペーン，「博多の魅力」ＨＰ及びフェイスブックや広報パンフレット配布等による情報発信を行った。 　また，新たな賑いづくりとしてイベント「和の博多」の実施や，まちづくりフォーラムの開催など，魅力発信事業を企画実施するとともに，地域が行う「博多灯明ウォッチング」の支援などを行った。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	「博多の魅力」ＨＰアクセス数（月間ＰＶ）	100,000	96,210	96%	b
成果の指標	－	－	－	－	
補足	－				

(5)おもてなしの人材活用事業

目的	ガイドや地域の人々がおもてなしの心で迎えることによって，長い歴史や豊かな伝統文化を有する博多の魅力を発信するとともに，地域密着型の活動を行い，地域の活性化を図る。	H28事業費	1,528 千円
		H29事業費	1,416 千円
対象	観光客	担当	博多区総務部企画振興課
実施内容	・博多ガイドの会の活動支援 　博多の地域に密着したガイド活動を行う「博多ガイドの会」の定例会や役員会へのオブザーバー参加や，まち歩き企画の広報や申込み受付等の事務的サポートを行った。 ・博多ガイドの活動内容 　定点ガイド　　東長寺や博多千年門で年間を通じて実施 　派遣ガイド　　4つのモデルコースを基本にガイドを実施 　地域密着型企画ガイド　地域の飲食店等と連携し，飲食や土産付の期間限定ガイドを実施		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	派遣及び企画ガイドの案内者数	1,300	1,766	136%	a
成果の指標	－	－	－	－	
補足	－				

区のまちづくり目標

中央区	人が集い，人が輝き，人がやさしいまち「中央区」 ～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～
取組みの方向性	○自然，歴史，地域の魅力を生かした，にぎわいのあるまち ○思いやりの心で人がつながり，元気に暮らせるまち ○誰もが安心して暮らせるまち

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	中央区	16,380	(10.9%)	115,013	(76.2%)	19,478	(12.9%)	151,602
H17	中央区	17,043	(10.5%)	122,962	(75.4%)	22,974	(14.1%)	167,100
H22	中央区	17,562	(10.1%)	127,849	(73.8%)	27,724	(16.0%)	178,429
H27	中央区	19,531	(10.5%)	133,279	(71.5%)	33,581	(18.0%)	192,688
H28	中央区	19,646	(10.4%)	134,011	(71.1%)	34,774	(18.5%)	194,725
	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	中央区	5,683	(6.9%)	47,521	(57.6%)	82,522
H17	中央区	6,848	(7.4%)	54,284	(59.0%)	91,929
H22	中央区	9,473	(8.9%)	67,499	(63.2%)	106,825
H27	中央区	11,893	(10.2%)	73,677	(63.5%)	116,063
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

自然，歴史，地域の魅力を生かした，にぎわいのあるまち

【現状】と【課題】

・福岡市における入込観光客数は，H22(1,642万人)からH27(1,974万人)の５年間で332万人増加しているが，そのうち約68%は日帰り客であるため，都心部の魅力を生かした回遊性の向上を図る必要がある。また，水上公園のオープンなど天神ビッグバンの推進もあり，変化していく状況にある。こうした動きを踏まえ，今後の持続的発展のためにも，天神地区のにぎわいの創出等による魅力の向上が必要である。

・セントラルパーク構想の動きを踏まえ，福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について，観光資源としての魅力を向上させる必要がある。

＊H26.6　福岡城跡整備基本計画策定，セントラルパーク構想策定
＊H27.3　国史跡鴻臚館跡整備基本構想策定
＊H28.3　旧大名小学校跡地まちづくり構想策定

【今後】

・国家戦略特区の指定を踏まえ，「We Love 天神協議会」との共働により，イベント等を実施していく。

・福岡城跡や舞鶴公園の魅力を観光資源として活用し，また，福岡城さくらまつり・福岡城おおほりまつりの充実を図り，幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をＰＲしていく。

思いやりの心で人がつながり，元気に暮らせるまち

【現状】と【課題】
・転出入者が多く，地域活動の担い手が不足・固定化し，地域コミュニティが育ちにくい状況にある。
・区の高齢化率は約18.5%（H28.10）であり，高齢者単独世帯は10.2%となっており，上記「区の人口・世帯動向」からも増加傾向にあるため，健康維持や日常からの支援体制の確立が必要。
・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために，地域での子どもの見守りを充実させ，安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが必要。
※H28.4　福岡市立中央児童会館のリニューアルオープン

【今後】
・公民館じょいんとプロジェクト（公民館とＮＰＯ等が共働で実施する事業）や公民館フェスタ，企業や専門学校等の地域活動への参加促進，地域デビュー応援事業等により，顔の見える関係づくりを進めるとともに，新たな担い手の発掘を支援する。
・住まい，医療，介護，予防，生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを推進。
・アラ還世代（55～69歳）や若い世代（20～30歳代）の健康に対する啓発活動の推進。
・母子何でも相談，安心子育て応援セミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により，子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

【現状】と【課題】
・警固断層を抱え，地域住民の防災意識が高まっている中，なお一層の地域の自主防災力の向上が必要である。
・H28における中央区の街頭犯罪件数は，減少傾向にあるものの1,588件(全市平均1,506件)と高い水準となっているため，地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動を促進し，犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要。
・天神地区を中心に放置自転車撤去の強化を図ってきた結果，放置自転車は減少傾向にあるものの，自転車放置禁止区域外の地区（西中洲・春吉地区など）においては違法駐輪が未だ見受けられる。

【今後】
・地域における防災・防犯等に関する自主的取り組みをより活発にするため，安全安心をテーマにした参加体験型イベント「中央区安全・安心フェスタ」を地域や企業などと連携し開催するとともに，地域主体の避難所運営の体制づくりの支援や，避難所開設・運営訓練を実施する。
・各校区・地区住民，企業，区役所，警察が連携し，各校区・地区において提起される問題や課題の解決に向けた取り組みを実施し，犯罪のない環境づくりを推進。
・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため，放置自転車対策として夜間・休日の撤去を強化するとともに，西中洲・春吉地区については放置禁止区域に指定するなど，人と自転車が共生できるまちづくりを推進。

２　区事業

(1)中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業

目的	まちの魅力が向上して来街者が増加し、地域住民の自分の住んでいるまちへの愛着が高まっている状況。	H28事業費	1,342　千円
		H29事業費	710　千円
対象	来街者，地域住民	担当	中央区総務部企画振興課

実施内容

①「福岡ヒストリー甲冑づくり講座」を実施
【目的】地域住民の「城があった街」という意識や，福岡城跡への愛着を育む
【内容】
・プラスチック素材の甲冑づくり（完成品は区へ帰属し，地域行事等へ活用を予定）
・外部より造形作家を講師として招聘
・受講者１４名（市内在住，在勤者を公募）
・７～１１月の間に計１１回実施

②福岡城さくらまつり，おおほりまつりのＰＲのために，ポスター，リーフレットを作成・配布
（ポスター180部，リーフレット14,200部）
③さくらまつり会場内設置のステージ設営運営を委託
④舞鶴公園で，にぎわいの創出や，幅広い世代に舞鶴公園まで足を運んでもらい，歴史に触れるきっかけをつくることで，歴史資源への関心の向上を図り，もって次世代への歴史・文化の継承に資することを目的としたイベントを実施。

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	完成した甲冑の数	2	2	100%	a
成果の指標	舞鶴公園でのイベント開催が舞鶴公園来園のきっかけとなった市民の割合（イベント参加者へのアンケート）	60%	63.7%	106%	
補足	－				

(2)地域コミュニティ活動活性化支援事業

目的	地域の主体性を尊重し，自治会・町内会や自治協議会等が地域コミュニティを活性化し，地域による自治を確立させる。	H28事業費	3,725　千円
		H29事業費	3,259　千円
対象	14校区・地区の自治協議会 自治会・町内会 地域住民	担当	中央区総務部地域支援課

実施内容

①自治会・町内会長交流会(防災をテーマにした事例発表と意見交換会 H29.2.23)
②キラリ校区支援事業(地域課題解決の意欲がある校区を対象にワークショップ等の開催を支援:H28.11.26平尾)
③地域と企業等とのマッチング（企業等の地域活動参加を促すため，企業等と地域の調整を行う：大名・赤坂・平尾）
④公民館じょいんとプロジェクト
（公民館とＮＰＯの共働促進事業：13事業，延べ参加人数2,501人）
⑤公民館フェスタ
（公民館の文化祭等において，プロの演劇や演奏等，魅力ある公民館事業を実施する：2館，延べ参加人数1,459人）
⑥安全・安心マップ
（多くの住民の参加を得てＤＩＧ（災害図上訓練）や校区の安全点検等を実施しマップを作成：小笹・笹丘）

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	公民館主催事業の参加者数	45,000	44,264	98%	a
成果の指標	住民の地域活動参加率（市政アンケート中央区の結果）	20	22.3	112%	
補足	平成２７年度から指標を変更				

(3)乳幼児子育て安心事業

目的	・こどもの発育・発達等に不安を持ったり，育児に自信が無い母親等が気軽に相談できる場を提供し、安心して子育てができるようになる。 ・子育て支援に関する各種機関情報を位置情報とともに，素早く入手できるようにする。	H28事業費	2,365 千円
		H29事業費	2,604 千円
対象	乳幼児とその保護者	担当	中央区保健福祉センター健康課・地域保健福祉課・子育て支援課
実施内容	①母子何でも相談：１回／月。助産師による個別相談，他に管理栄養士や子育て支援ｺﾝｼｪﾙｼﾞｭによる相談，保育士による遊びを実施し，延べ５８９組が参加。 ②ちょっと気になる子の子育てサポート事業：母親の育児不安や精神不安定がありこもりがちな親子の教室１回／月，個別相談１～２回／年実施。延べ４５組の親子が参加。 ③子育て安心セミナー： １）低月齢児向け子育てセミナー（希望者全員参加で実施）：生後１～３か月の第１子とその母を対象に，産後間もない時期の不安解消を目的に月に１～２回，計１７回／年実施，３０８組６２０人が参加。※別途局予算あり。 ２）転入者向け育児ｾﾐﾅｰ：平成２８年１月１日以降に市外から転入した１歳未満の児と母親を対象に１回実施，正しい身近な情報を得る事で育児不安の軽減を図る。２２組４８名が参加。 ３）祖父母向け孫育てセミナー：１歳未満の孫を持ち，初めて孫のお世話をする方を対象に１回実施，育児サポート体制の充実を図る。２０名が参加。 ④子育て情報マップ：寄付公募で業者を選定し，官民協働のもと６千部の子育て情報マップを作成。子育て世代が多く利用する，中央児童館，区役所窓口，保健所等で配布。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	子育て安心セミナー参加者（組）	240	324	135%	b
成果の指標	3歳児健診時子育てが楽しいと思う保護者の割合（%）	80	79	99%	
補足	－				

(4)アラ還世代のための還活大学

目的	・退職後も年に1回健診を受け，自身の健康管理ができる。 ・その時期特有の疾患について理解し，自ら予防策をとることができる。 ・地域の公民館に出向いたり，地域活動に参加することができる。	H28事業費	1,212 千円
		H29事業費	1,169 千円
対象	55歳～69歳の男女 中央区に居住または中央区に勤務する方	担当	中央区保健福祉センター地域保健福祉課
実施内容	①講座の開催 基礎編4回シリーズ×1コース，延人数149名参加。 応用編1（27年度分：健康度アップ教室）3回，延人数48名参加。 応用編2（公民館めぐりウォーキング）1回，10名参加 応用編3（みんなでつくる健康づくり）4回，延46名参加。 ②応用編3より立ち上がった自主グループ活動，運営・広報等支援 ③卒業生主催のイベント（アラ還の主張）1回，51名参加。 イベント実施のための運営会議。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	教室受講者数（人）	50	51	102%	b
成果の指標	講座参加者のうち，年1回検診を受けた方の割合（%）	100	85.9	86%	
補足	－				

(5)人と自転車が共生できるまちづくり事業

目的	道路利用者の安全で快適な空間の確保及び都市景観の向上の一つの方策として，自転車利用者の自転車放置を防止する。	H28事業費	9,297 千円
		H29事業費	9,316 千円
対象	自転車利用者	担当	中央区地域整備部道路適正利用推進課
実施内容	①モラルマナー啓発:街頭指導員延べ約 8,838人 ②放置自転車の撤去: 27,690台		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	有料駐輪場の利用者数(1日平均利用者数)	—	6145	—	a
成果の指標	放置率(%)	8	4.7	170%	
補足	－				

(6)食と美容の安全・安心プロモーション事業

目的	食中毒予防，食品表示や食のアレルギー事故防止，美容施術等による健康被害防止に関する正しい知識を身につけてもらい，食中毒事件，食のアレルギー事故，美容施術等による事故の発生を未然に防ぐ。	H28事業費	1,500　千円
		H29事業費	1,884　千円
対象	市民及び事業者。 市民については，特に子どもの保護者及び学生等若年層，美容に関心の高い世代を中心とする。	担当	中央区保健福祉センター衛生課

実施内容

1　食の安全・安心の推進

①　食肉の生食による食中毒予防

- 事業者に対し施設監視や講習会等で提供自粛を指導した。（講習会 67回，受講者 4,756人）
- 市民に対し，パンフレット等を活用し，生食肉を食べることの危険性を周知した。（パンフレット配布 17,690部）

②　食のイベント，バザーにおける食中毒予防

- 事業者やバザー開設者に対しパンフレットを活用した事前指導，当日の現地指導を実施した。（施設監視 3,031件，窓口指導 88件）

2　美容の安全・安心の推進

- 市民に対し，パンフレットを配布し，まつ毛エクステンション等美容施術による健康被害防止について周知した。（パンフレット配布 6,656部）
- 事業者に対し，はさみ等接皮器具のATP値（汚れの指標）を調査するなど衛生指導を行った。（施設監視 430件）
- 市民および事業者に対し，まつ毛エクステンション・毛染め・出張理美容に関する講習会を行った。（講習会 14回，受講者 262人）

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	講習会の受講者数	5,700	5,018	88%	b
成果の指標	食中毒事件数及び食中毒疑い調査件数(生食肉関係)	0	22	－	
	美容に関する苦情・相談件数	0	7	－	
補足	-				

(7)中央区地域防犯対策事業

目的	地域の防犯活動を支援することで，住民の防犯意識の高揚を図るとともに，自主防犯活動が活発となり地域の犯罪抑止力が強化される。	H28事業費	1,720　千円
		H29事業費	1,597　千円
対象	中央区民	担当	中央区総務部地域支援課

実施内容

①ＮＣＣ活動による各校区部会が実施する防犯活動に参加
②児童の登校時間帯における見守り活動を実施
③防犯活動に必要な物資の支援（ライト，自転車用ワイヤーロック等）
④中央警察署主催の防犯キャンペーンに随時参加
⑤安全安心まちづくりニュースを毎月各校区へ配布
⑥落書き消しボランティア支援（大名，赤坂，当仁，警固，舞鶴，簀子，高宮，草ヶ江校区，天神3丁目の落書きけし活動に参加するとともに溶剤等を提供）
⑦防犯カメラ設置補助金を活用した支援の促進
・設置団体；18町内会　設置台数；58台

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	防犯活動に対する支援を行う校区数	10	11	110%	b
成果の指標	中央区内で発生する街頭犯罪認知件数（万引きを除く）	1600	1588	99%	
補足	－				

区のまちづくり目標

南区	いきいき南区　くらしのまち ～身近な自然とふれあい　みんながつながり支え合う～
取組みの方向性	○人のつながりや交流が大切にされ，地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち ○みんなにやさしい，安全で安心して住み続けられるまち ○那珂川やため池，油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち ○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで，活気あふれるまち

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	南区	35,937	(14.8%)	174,163	(71.7%)	32,830	(13.5%)	243,039
H17	南区	34,007	(13.8%)	173,480	(70.6%)	38,204	(15.5%)	246,367
H22	南区	33,528	(13.6%)	167,308	(68.0%)	45,186	(18.4%)	247,096
H27	南区	34,626	(13.7%)	163,562	(64.5%)	55,430	(21.9%)	255,797
H28	南区	34,987	(13.7%)	163,304	(63.9%)	57,333	(22.4%)	257,801
H28	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	南区	6,613	(6.3%)	42,016	(40.0%)	104,999
H17	南区	7,514	(6.9%)	43,813	(40.3%)	108,734
H22	南区	9,892	(8.8%)	46,220	(41.2%)	112,306
H27	南区	13,798	(11.5%)	51,553	(43.1%)	119,487
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

人のつながりや交流が大切にされ，地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち

【現状】と【課題】

・少子化が進行する中，母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないよう，安心して生み育てられるための施策や，子どもが健やかに育つための施策が求められている。
・高齢化率が20%を超える校区が過半となっており，高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう応援する施策がますます重要。
・地域活動の担い手不足が顕在化しており，地域の多様な主体が持つ資源を，地域課題の解決や活性化に活かす共助の取組みが必要となっている。

【今後】

・新米ママや若年ママのための親子セミナー，発達が気になる子どもと親が集えるサロンの開設など，育児不安を軽減し，孤立化や虐待への移行を予防するとともに，子育て情報の提供や，子どもの正しい生活リズムの普及啓発などに取り組み，みなみっ子の元気な成長を応援。
・高齢者の健康づくりや社会参加，認知症等に関する講座開催，地域で高齢者を見守るしくみづくりなどを進め，高齢者が元気で心豊かな人生を送れるよう応援。
・企業や大学等の多様な主体が有する，人やモノなど様々な資源をまちづくりに活かすことで，コミュニティの活性化を図る。

みんなにやさしい，安全で安心して住み続けられるまち

【現状】と【課題】

・高齢者単独世帯数の割合が11.5%（H27）と７区中最も高く，災害時要援護者の支援方法の確立等が課題。
・外国人居住者が増加しており，ゴミ出しルールや生活マナー等をわかりやすくサポートするとともに，地域住民との相互理解により，外国人も地域の一員として互いに暮らしやすい環境づくりが必要。

【今後】

・災害時における要援護者をはじめとする住民の安全確保のため，地域と共働で防災・防犯意識の醸成，組織や従事者の育成，訓練などに取り組むとともに，ワークショップやセミナーなどを通じて，先進的な地域の取組み事例を紹介し，全体の意識向上につなげる。
・外国人と地域住民の共存のため，ワークショップや交流会等により相互理解を深めるきっかけづくりを行う。

那珂川やため池，油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるま	
【現状】と【課題】	・南区の景観の大きな特色である56か所のため池をはじめ，油山や那珂川などの身近な自然環境を守り育むとともに，健康づくりなどにも活かしていくことが重要。
【今後】	・身近な自然やまちの魅力を再発見し，地域への誇りと愛着を深めるためのさまざまな取組みを推進。
大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで，活気あふれるまち	
【現状】と【課題】	・区内及び周辺部には７つの特色ある大学・短大が立地しており，その専門的知識や人材などを住民生活の課題解決等に活かす取組みが重要。 ・西鉄天神大牟田線からも遠い区西南部地域では，道路交通網の強化や公共交通の利便性向上など，地域の活性化に向けた取組みが求められている。
【今後】	・平成28年12月に７大学と締結した包括連携協定に基づいた事業実施を推進。 ・那珂川町との交流事業や，桧原桜を活かしたまちづくり等を推進。 ・地域拠点である長住・花畑地域を含む区の西南部地域の活性化に向けて検討。

2　区事業

(1)元気ハツラツみなみっ子応援事業

〔A みなみっこ子育て支援事業　　B 子育て情報マップ作成〕

目的	育児不安が解消して，虐待のリスクが軽減している。安心して楽しく子育てしている。	H28事業費	1,817　千円
		H29事業費	1,451　千円
対象	[A]育児不安を感じやすい若年・新米の母親，発達が気になる子どもの母親 [B]乳幼児の保護者全般	担当	南区保健福祉センター 地域保健福祉課［A］ 子育て支援課［B］
実施内容	[A]みなみっこ子育て支援 ・育児不安を感じやすい層に早期にアプローチし支援するため，下記事業を実施 ①１歳未満の乳児を持つ若い母親対象の交流会「プチママ☆あつまれっ！」 ②初めて子育てをする生後間もない乳児の母親対象の「生後１～３ヶ月新米ママのための親子セミナー」 ③発達障がいのある子どもと保護者のためのサロン「みなみん」（区内の大学との共働），保護者向けプチ講座,一般向け講座 ④子どもの生活リズム向上のため普及啓発（長時間メディア視聴注意喚起含む）（パンフレット作成） [B]南区子育て情報マップ作成・配布 ・中学校区ごとに作成し，こんにちは赤ちゃん訪問，子どもプラザ，子育て支援課窓口などで配布 （区ホームページからダウンロードも可能）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	①，②，③の事業への合計参加者数[A]	416	492	118%	a
成果の指標	セミナー，サロン終了アンケートにて「満足した」と回答した割合[A]	92.0%	92.8%	101%	
補足	－				

(2)いきいきシニア応援事業

〔A アクティブライフのための健康きっかけづくり事業　　B 食に着目したアクティブエイジング推進事業
C 南区耳バリアフリープロジェクト　　D お･も･い･や･りネットワーク事業〕

目的	[A，B，C]高齢者が健康で，生きがいを持って，いきいきと暮らしている。 [D]高齢者が，地域全体で見守られ，住み慣れた地域で安心して生活できる。	H28事業費	1,619　千円
		H29事業費	1,182　千円
対象	[A]概ね60歳前後の方 [B]元気な高齢者 [C]聞こえが不安な高齢者 [D]高齢者支援体制づくりに関心が高い（必要と感じている)校区（自治組織）	担当	南区保健福祉センター 地域保健福祉課［A，D］ 健康課・衛生課［B］ 総務部企画振興課［C］
実施内容	[A]アクティブライフのための健康きっかけづくり事業 ・健康づくり（生活習慣病予防・栄養・運動等）と社会参加をテーマに「健康きっかけづくり講座」を実施し，講座の内容をホームページに掲載 [B]食に着目したアクティブエイジング推進事業 ①「いきいきシニアのためのレシピ」及び「災害食レシピ」の啓発 ・純真短期大学との共働で，レシピを活用した料理教室を実施 （学生や地域の高齢者，食進会の方が参加して交流） ・博多どんたく南区演舞台，食育月間パネル展や南区シニア祭り，南区健康フェア，スーパーでのレシピ紹介コーナー，健康食パーティー等で配布 ②生活習慣病予防月間の食育講演会をサイエンスカフェ形式で開催 （講演と手作りおやつの試食をしながら交流） [C]南区耳バリアフリープロジェクト ・九州大学大橋キャンパスと共同で開発したヒアリング・ループの機器貸し出しを実施 [D]お･も･い･や･りネットワーク事業 ①弥永校区「認知症の人とその家族が安心して暮らせるまちづくり」への支援 関係者による定例会議（１２回），研修会，講座開催（４回），地域カフェ，徘徊高齢者の支援体制づくり等，校区が取り組む具体的な取り組み支援，医療・介護事業所と校区住民とのネットワークづくりへの支援 ②筑紫丘校区「若い世代も巻き込んだ防災に関する取り組み」への支援 自治組織会長への課題聴き取り，自治協役員との協議，関係者協議　等		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	講座参加者数(述べ人数)〔A〕	125	134	107%	a
成果の指標	3か月後アンケートで，健康づくりに取り組んでいる人の割合[A]	90%	96.0%	107%	
補足	－				

(3)南区防災・防犯支援事業

目的	地域と共働し，防災・防犯意識の醸成，組織や従事者の育成，訓練などに取り組むとともに，校区独自の活動を支援し，安全で安心な住みよいまちづくりを進める。	H28事業費	2,343 千円
		H29事業費	5,232 千円
対象	南区の住民	担当	南区総務部総務課
実施内容	○防災連絡会の実施 ・各校区自主防災組織代表者による連絡会を実施 ○災害時要援護者避難支援対策への取組 ・同意者名簿の提供（２１校区） ○防犯物品支援（５万円×２４校区） ○青パト活動物品支援（２万円×２０校区） ○防犯推進及び青パト連絡会の開催 ・各校区防犯組織代表者及び青パト団体代表者による連絡会を実施 ○青パト立ち上げ支援 新規に１校区（高木）が青パト車両を導入 ※H28nから，「南区地域防災支援事業」と「南区地域安全・安心まちづくり事業」に分離		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	災害時要援護者台帳覚書締結校区数	22	21	95%	b
成果の指標	覚書締結校区中，避難指示時に要援護者として把握している人の安否確認を実施できた校区数	22	避難指示発令なし	－	
補足	－				

(4)まちのよかとこ再発見事業

目的	那珂川やため池，油山などの自然や魅力的なスポットをより身近に感じることで，南区により愛着を持ってもらう。	H28事業費	1,528 千円
		H29事業費	2,326 千円
対象	南区の住民 ほか	担当	南区総務部企画振興課
実施内容	○みなみく・さるくの実施 ・長住，西長住校区でウォーキングイベントを開催 ○ため池フォトラリーの実施 ・小中学生を対象に，ため池の自然や魅力に親しんでもらうイベントを実施 ○南区カレンダーの作成・配布		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	南区カレンダー配布枚数	2,400	2,423	101%	b
成果の指標	市政に関する意識調査：自然環境の豊かさに満足(南区)	85%	83.5%	98%	
補足	－				

(5)大学と地域の縁むすび事業

目的	南区に所在する大学・短大が持つ専門的人材や知的財産を活用して住民のくらしの課題解決に生かす取組みを進めるとともに，学生と地域との交流を促進する。	H28事業費	471 千円
		H29事業費	2,294 千円
対象	南区の住民　ほか	担当	南区総務部企画振興課
実施内容	・包括連携協定の締結 ・南区出前講座（大学版）の実施 ・南区大学公開講座の開催 ・南区大学連絡会議の開催(６月，２月) ・南区大学情報バンク(ホームページ)の運営		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	出前講座（大学版）の開催数	30	25	83.3%	a
成果の指標	公開講座の参加者アンケートにて「満足した」と回答した人の割合	90%	100%	111.1%	
補足	－				

区のまちづくり目標

城南区	豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し，地域で支え合う安全で安心なまちづくり～
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支えあう，ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にするまち

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	城南区	16,704	(13.3%)	92,827	(73.8%)	16,212	(12.9%)	126,468
H17	城南区	16,281	(12.7%)	92,145	(72.0%)	19,483	(15.2%)	128,663
H22	城南区	16,495	(12.9%)	88,231	(69.1%)	22,940	(18.0%)	128,659
H27	城南区	16,837	(13.0%)	84,258	(65.2%)	28,215	(21.8%)	130,995
H28	城南区	16,811	(13.0%)	83,426	(64.5%)	29,141	(22.5%)	131,061
	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	城南区	3,381	(5.7%)	28,349	(47.9%)	59,194
H17	城南区	4,132	(6.8%)	28,615	(47.2%)	60,655
H22	城南区	5,275	(8.5%)	29,678	(47.7%)	62,189
H27	城南区	7,206	(11.2%)	31,533	(48.9%)	64,511
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

安全で安心して暮らせるまち

【現状】と【課題】

・樋井川水系の河川氾濫による浸水被害対策については，対象校区での水害避難ガイドブックの作成，それを契機とした自主防災組織の活性化や，県の樋井川浚渫工事等により一定の整備がなされている。また，土砂災害対策については，土砂災害警戒区域（土石流）を有する４校区を対象として，土砂災害に関する講習会，災害図上訓練及び避難行動訓練を実施し，地域住民の土砂災害対策への機運が高まっている。

　このように，災害発生時に避難行動をとるという意識は根付き始めてきたが，避難者の受け皿である避難所について，地域・行政が共働した運営が確立されていないため，これを実行できる体制整備を図る必要がある。

・城南区では全市平均と比べても年少人口の割合が低く，少子化が進んでおり，安心して生み育てられる環境づくりが必要である。

【今後】

・平成28年４月に発生した熊本地震の教訓を受け，避難所を運営するために必要なことを学ぶワークショップや図上訓練（HUG）を地域で開催し，地域・施設管理者・行政が一体となった避難所運営の体制づくりに努める。また，各校区の自主防災組織が行う防災訓練の計画等の支援や防災関連物品の支援を行い，地域防災力の向上に努める。

・子育て世帯を対象とした月齢に応じた子育て情報やトピックスなどを配信する携帯用メールマガジン「子育てにっこりんメール」において，アンケートにより子育てに関するニーズを把握し，必要な情報を発信するなど，安心して生み育てられる環境づくりを推進する。

地域で支え合う，ぬくもりのあるまち

【現状】と【課題】

・城南区では全市平均を上回るスピードで高齢化が進んでおり，独居や認知症などの高齢者問題への取り組みとともに，高齢になっても住み慣れたまちで自立した生活を安心して続けられるよう，地域で支え合うシステムづくりが求められている。

【今後】

・超高齢化社会に対応するため，地域活動を担う人材の育成支援，地域の見守りネットワークの強化など，地域で支え合うまちづくりを推進する。

・住民の健康寿命の延伸のために，介護予防や健康づくりに取り組む人を増加させることを目的とした事業を体系的に展開する。

地域と大学が共生するまち	
【現状】と【課題】	・区内にある福岡大学，中村学園大学の学生数は約２万４千人で，区人口の約２割に相当する。大学の高度な教育研究機能や設備，専門的知識を持つ人材などを地域課題の解決に生かす取組みが求められている。
【今後】	・区役所と大学の連携や住民と学生の交流を促進するとともに，地域における活動団体等も含めたネットワークを構築し，多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。
自然環境を大切にするまち	
【現状】と【課題】	・区域を貫流する樋井川，区域の南部に位置する油山など，市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援し，住みやすい環境づくりに生かすことが必要である。
【今後】	・樋井川の地域活動団体や油山市民の森管理事務所と連携し，身近な自然の良さをＰＲするなど，区民の環境保全意識の向上を図り，自然環境を大切にするまちづくりを推進する。

2　区事業

(1)防災対策事業

目的	①自主防災組織を中心に自助共助が行えるようになる。 ②土砂災害に対する備え及び自助共助が行えるようになる。 ③災害時に遅滞なく対応できるようになる。	H28事業費	714　千円
		H29事業費	868　千円
対象	①各校区自主防災組織 ②土砂災害危険地区住民 ③城南区災害対策本部職員	担当	城南区総務部総務課
実施内容	○市民総合防災訓練（城南区会場）として、別府校区（別府小学校）で、大規模地震を想定した防災訓練を実施した。 ○地域自主防災組織の強化として，各校区自主防災組織による防災訓練、ＤＩＧ（災害図上訓練）、ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）の支援，指導を行った。 ○土砂災害対策事業として，土砂災害講習会・ＤＩＧ（災害図上訓練）・避難行動訓練を実施した。 ○区職員を対象として，土のう作成訓練や避難所開設訓練を実施した。 ○城南区災害対策本部マニュアル及び各班の班別行動マニュアルの見直しを行った。 ○城南区災害対策本部各班長・副班長に対して，城南区災害対策本部マニュアルに関する防災研修を行った。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	該当校区での土砂災害対策関連事業の回数	12	6	50%	a
成果の指標	校区での土砂災害対策関連事業への参加者数	360	880	244%	
補足	－				

(2)安全安心のまちづくり

目的	地域住民の防犯意識が向上し、それにより地域の防犯力の向上を目指す。 地域防犯活動の活性化。	H28事業費	1,628　千円
		H29事業費	1,628　千円
対象	①地域住民 ②城南区防犯推進協議会 ③校区の防犯指導者	担当	城南区総務部総務課
実施内容	①城南区防犯推進協議会による防犯活動の推進 ②安全安心マップの改訂（田島校区・長尾校区） ③校区パトロール活動支援 ④高齢者を対象とした防犯啓発 ⑤街頭キャンペーンの実施 ⑥防犯指導者研修 ⑦地域防犯活動支援		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	安全安心マップの改訂校区数	2	2	100%	a
成果の指標	校区の危険箇所再確認校区数	2	2	100%	
補足	－				

(3)城南区子育て応援メルマガ事業

目的	子育て中の保護者が、孤立感や不安感を解消し、安心して楽しく子育てできる環境を整える。	H28事業費	1,200　千円
		H29事業費	1,201　千円
対象	・就学前までの子どもをもつ保護者 ・妊娠中の人やその家族	担当	城南区保健福祉センター健康課
実施内容	・月齢に応じた子育て情報を月１回配信するほか、子育てに関する幅広い情報を集め配信した。 ・また、登録者アンケートを実施して情報のニーズを調査し、その結果を区の関係６課で構成するワーキンググループで検証し、配信内容に反映した。 ①配信件数：83件（平均月6.9件） （内訳）月齢に応じた子育て情報：12件（月１回）　随時号：71件（平均月5.9件） ②登録者数：2,373人（年度中416人増）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	配信件数	60	83	138%	b
成果の指標	登録率（%） ＊登録者数(0～3歳)/城南区推計人口(0～3歳)	35%	31.0%	89%	
補足	－				

(4)地域を支える人材発掘・育成支援事業

目的	○校区（地区）自治協議会での地域活動を担う新たな人材が確保される ○地域活動者のスキルアップを図る	H28事業費	375 千円
		H29事業費	709 千円
対象	○各校区（地区）自治協議会等における地域活動者 ○小中学校ＰＴＡ活動者 ○大学生（福岡大学，中村学園大学・短期大学部）	担当	城南区総務部地域支援課
実施内容	研修会や意見交換会を開催 ○人材発掘事業 ①ＰＴＡ活動者への地域活動研修（七隈） ②大学生への地域活動ガイダンス（七隈） ○人材育成事業 ①新任自治会・町内会長研修 ②地域リーダー養成教室(堤) ③会計研修（堤，別府（２回），南片江）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	人材発掘・育成支援事業（研修）実施回数	8	8	100%	a
成果の指標	地域と大学の交流事業数	50	59	118%	
補足	－				

(5)区民の自主的な健康づくりの促進

目的	自治協議会との共働により、自主的に健康づくりに取り組む市民を増やす。	H28事業費	240 千円
		H29事業費	0 千円
対象	４０歳以上の城南区民	担当	城南区保健福祉センター地域保健福祉課
実施内容	○新たな３校区（南片江、金山、七隈）で実施。 ○自治協議会と校区の健康課題を共有し、健康講座のテーマを決定。 ○参加者自身の健診結果を持ち寄り、自己の健康課題と校区の健康課題をテーマとした健康講座を実施。 ○次年度からの校区での自主的な健康づくり活動を、校区役員等とともに検討。 ○区役所内関係部署、および社会福祉協議会、地域包括支援センターとの意見交換会において、高齢者を中心とした健康課題や健康づくりの社会資源について情報共有した。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	健康講座開催校区数	3	3	100%	a
成果の指標	自主的な健康づくり活動を開始する校区数	3	3	100%	
補足	－				

(6)大学のあるまちづくり（大学・大学生と地域の連携交流推進）

目的	・学生と地域がふれあう活気のあるまちをつくる。 ・大学の資源（教育研究機能・施設・人材）の地域への還元促進 ・大学と地域の交流による地域課題の解決	H28事業費	667 千円
		H29事業費	766 千円
対象	大学・大学生 地域・住民	担当	城南区総務部企画共創課
実施内容	○福岡大学、地域、行政で構成する「地域連携推進協議会」の円滑な運営支援及び協議会への参加 ○中村学園大学、地域、行政で構成する「地域連携推進協議会」の円滑な運営支援及び協議会への参加 ○大学と地域の情報交流の場づくり ・福岡大学地域交流サロンへ公民館だより・自治協だよりを配架 ・中村学園大学サークルリーダー研修での公民館事業案内 ○大学・大学生の地域活動に対する広報 ・区役所１階大学コーナーでのチラシ配架及びポスター掲示 ・区ＨＰ、フェイスブックで大学関係の記事を発信 ○地域における活動団体等も含めたネットワーク推進		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	地域と大学の交流事業数，及び行政と大学の連携事業数	60	71	118%	a
成果の指標	地域と大学の交流事業数	50	59	118%	
補足	－				

区のまちづくり目標

早良区	ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち
取組みの方向性	○お互いが支え合い安心して暮らせるまち ○早良区の特性を生かした魅力あるまち ○地域の魅力を生かしたまち ◆～活力とにぎわいのあるまち～　北部 ◆～地域の新しい拠点となるまち～　中部 ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～　南部

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	早良区	32,337	(15.9%)	145,141	(71.5%)	25,570	(12.6%)	203,656
H17	早良区	31,417	(15.0%)	145,996	(69.8%)	31,730	(15.2%)	209,570
H22	早良区	31,510	(14.9%)	142,113	(67.4%)	37,234	(17.7%)	211,553
H27	早良区	32,653	(15.1%)	137,689	(63.6%)	46,110	(21.3%)	217,877
H28	早良区	32,708	(15.1%)	136,327	(62.9%)	47,691	(22.0%)	218,150
H28	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	早良区	4,687	(5.8%)	26,881	(33.0%)	81,425
H17	早良区	6,181	(7.1%)	30,195	(34.9%)	86,621
H22	早良区	7,467	(8.3%)	32,128	(35.6%)	90,134
H27	早良区	10,299	(10.8%)	36,104	(37.8%)	95,617
H27	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

【現状】と【課題】

・核家族化，地域コミュニティの希薄化等の社会状況の変化により，地域において子育て家庭が孤立化している。子育てへの不安感を軽減し，児童虐待，発達障がい等，支援を要する子どもや家庭をめぐる問題に対応する必要がある。
・早良区のH27n特定健診受診率は23.8%であるが，40歳代は12.1%，50歳代は16.0%と低い。生活習慣病予防の重要な年代である働きざかり世代を対象に，健康づくりの啓発活動を強化する必要がある。
・超高齢社会の到来に備え，地域包括ケアの推進が必要である。高齢者を地域で支える仕組みづくりは，区，専門職，自治協，社協等との各レベルでの地域ケア会議で進めているが，市民への啓発が不足している。
・団塊世代の大量退職期の到来を契機に，定年退職後に必要な情報提供を行うとともに，地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより，地域の担い手不足解消等へ繋げていくことが求められている。
・平成28年に発生した熊本地震を教訓に，各校区における災害時避難行動要支援者への支援や避難所運営など，より実践的な対応の検討が求められている。

【今後】

・発達が気になる親子支援のための子育てサロン「もちもち」の開催や，子育て情報誌・子育て情報マップの配布，「さわらっ子育て応援ホームページ」での情報発信などにより，子育て世代の不安を軽減するとともに子育てを応援する。また，児童虐待防止の研修や子ども自身が自分の心とからだを守る暴力防止のための予防プログラムを実施し，児童虐待防止のための啓発を行う。
・生活習慣病予防の重要な年代である働きざかり世代を対象に，健康づくりへの関心を行動に結びつけるための啓発活動を行う。
・公民館・地域と専門職の共創による市民講座「介護は突然やってくる！親子で考える介護の備え講座」の開催を支援し，小学校区レベルで地域包括ケアに取り組む機運を醸成する。また，公民館での実践事例を学び合い，活動の輪を広げるサミット会議を実施する。
・シニア世代向けセカンドライフの応援の一環として「シニアのための智恵袋」を活用した地域人材の発掘にかかる事業を行うなど，地域の担い手増加に取り組む。
・校区ごとに災害時の要支援者への働きかけや実践的な避難所運営などの研修を開催する「地域防災力の強化事業」を推進する。

早良区の特性を生かした魅力あるまち	
【現状】と【課題】	・早良区を代表する脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し，次世代へ引き継いでいく必要がある。 ・H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりなど，早良区の魅力を生かした地域活性化に取り組む必要がある。
【今後】	・室見川水系一斉清掃を継続するとともに，ポイ捨てをさせない環境づくりとして，啓発や防止策の検討を引き続き行う。 ・「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため，H25nに策定した構想に基づき，ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。 ・「さわらの秋」事業をはじめとして，早良区の魅力について，区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。
地域の魅力を生かしたまち	
【現状】と【課題】	・早良区南部地域は豊かな自然や産業，歴史などの地域資源に恵まれる一方，少子高齢化や人口減少など，地域の活力低下が懸念されており，地域や行政が共働で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。 ・早良区中南部地域における，区レベルの行政サービスを補完する施設として，地域交流センターの早期整備を図る必要がある。
【今後】	・早良区南部地域の魅力を生かしたまちづくりを進めるため，地域，各種団体，行政が一体となった早良南部地域の課題解決に向けた取組みである「早良みなみ塾」の対象校区を拡大（5校区から7校区）し，自治協間の連携強化，南部コミュニティの一体化，人材・資源の活用促進を図るとともに，地域の魅力を生かした地域主体の取組みを支援する。 ・中南部地域においては，地域交流センターの整備進捗に応じ，地元への適切な情報提供や意見調整を行う。

2　区事業

(1)さわらっ子育て応援事業（発達が気になる親子支援，子ども虐待防止，子育て情報の充実）

目的	子育てに不安や心配があっても，「相談できる人や場所があるから大丈夫」と安心して生み育てることができ，子どもたちが幸せにすくすくと育つ。	H28事業費	1,391　千円
		H29事業費	1,382　千円
対象	早良区内の子育て家庭	担当	早良区保健福祉センター 子育て支援課・地域保健福祉課

実施内容

① 発達が気になる親子支援
- 子育てサロン「もちもち」の開催　12回　参加人数 110組　263人
  - 「もちもち」ミニ講座の開催　9回　参加人数　97人
  - 「もちもち」ﾍﾟｱﾚﾝﾄﾒﾝﾀｰによる体験談　2回　参加人数　25人
- 子育て講演会の開催　１回　参加人数　36人

② 子ども虐待防止に向けた取組
- 全体研修会の開催　　2回　参加人数　180人
- 児童虐待防止啓発グッズ配布
  児童虐待防止啓発ポスター：95箇所　　卓上のぼり：64箇所　　のぼり旗：54箇所

③ 子育て情報の充実
- 子育て情報マップ（中北部・中南部・南部）の改訂及び増刷　各2000部
- さわらっ子育て応援ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの更新（毎月）
- さわらっ子育て応援ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ関係課会議の開催　2回

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	虐待防止講座開催数（累計）	40	40	100%	b
成果の指標	児童虐待防止についての理解	100	95	95%	
補足	－				

(2)働きざかりの健康づくり

目的	健康づくりへの意識・関心を高め，実際の行動に結びつく。 区全体が健康となるまちづくりをめざす。	H28事業費	168　千円
		H29事業費	0　千円
対象	生活習慣病予防の重要な年代である働きざかり世代 （２０歳代～５０歳代）	担当	早良区保健福祉センター健康課

実施内容

★健康情報の発信
①レシピを作成し，「健康づくり応援団の店」外，協力店舗を通じて健康情報を発信した。
　※レシピの配布作業は早良区ヘルスメイトが協力
②フェイスブックやホームページ，メールにより，市が実施する健康づくり事業紹介や通勤ついでに健康づくりを実践する市民を増やすための啓発を行った。
③イベント等の機会を捉えた健康づくりに関する啓発を行った。
（どんたく，みなみマルシェ等のイベント時）

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	健康づくり応援団の店と連携したレシピ等の配布数	8000	8065	101%	a
成果の指標	健康づくりに取り組んでいる市民（20歳以上）の割合（%）	－	－	－	
補足	健康日本21福岡市計画の成果指標を目安とし，啓発事業を継続				

(3)シニアのための智恵袋

目的	当該世代のセカンドライフへの不安解消，及び社会参加、生きがいづくりの促進	H28事業費	900　千円
		H29事業費	900　千円
対象	早良区内の今後定年を迎えるシニア世代（概ね50～65歳）	担当	早良区保健福祉センター福祉・介護保険課

実施内容

１．冊子の作成
- ◇作成部数　4,000部(H29.2)　※改訂
- ◇配付場所　関係各課窓口・区役所情報コーナー，市情報プラザ等
  - ※アラカンフェスタでの配布(700部)

２．シニアのための智恵袋講演会の開催
- ◇参加者数　500名　　(H29.3.19開催)
- ◇内容　講演会「笑顔で健康生活～シニアのための５か条」（講師：林家源平氏（落語協会　真打））
- ◇開催場所　早良市民センター

３．情報発信
- ◇冊子改訂版配布にあわせ「シニアのための智恵袋」ホームページを運用
- ◇早良区情報玉手箱（facebook）にて，随時情報発信

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	シニアのための応援イベント・講座の参加者数	400	500	125%	a
成果の指標	区ボランティアセンターへの50代以上の登録者数 ※介護支援ボランティアを含む。	360	362	101%	
補足	冊子の改訂に併せて市民センターで講演会を開催したが、参加人員は目標値を上回って会場が満員となった。				

(4)校区安全安心まちづくり推進事業

目的	地域住民の自治意識，防犯活動をさらに活性化させ，地域・警察・行政が一体となって犯罪を未然に防止する総合的な活動にまで展開させていくことで，安全で安心して快適に暮らせるまちを目指す。	H28事業費	1,131 千円
		H29事業費	1,220 千円
対象	地域住民	担当	早良区総務部総務課
実施内容	毎年２校区を対象に，ワークショップ形式により校区内の危険個所等の点検を行い，安全安心に関するまちづくり基本計画の策定及び安全安心マップの作成を行った。 次年度には，策定されたまちづくり基本計画に基づき，交通安全施設整備を行う。 平成２８年度は，まちづくり基本計画の策定，安全安心マップの作成については，有住校区及び賀茂校区にて実施し，交通安全施設の整備については，入部校区及び脇山校区にて実施した。（交通安全施設の整備は地域整備部の予算による）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	校区全体の安全安心まちづくりの基本計画	19	19	100%	a
成果の指標	－	－	－	－	
補足	－				

(5)室見川水系一斉清掃

目的	早良区民と共働で室見川水系を上流から下流まで一斉に清掃することで，室見川水系の自然環境を守るとともに環境意識の向上を図る。	H28事業費	804 千円
		H29事業費	907 千円
対象	早良区民	担当	早良区地域整備部生活環境課
実施内容	①福岡県福岡県土整備事務所へ除草依頼（H28.7） ②第１回実行委員会（H28.9） ③各校区自治協議会等へ参加要請（H28.10） ④一斉清掃実施（H28.11.27）　※雨天中止 ⑤第２回実行委員会（H29.2）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	清掃参加者	5000	－	－	—
成果の指標	ごみ回収量（４ｔトラック台数）	10	－	－	
補足	雨天のため中止。参加申込者数は4,217人				

(6)さわら魅力アップ事業（さわらの秋）

目的	区民が地域に愛着や誇りを持ち，より一層の関心を深めて区内を回遊し，かつ，区外からの観光客を迎え，地域経済の活性化を図る。	H28事業費	3,463 千円
		H29事業費	3,482 千円
対象	区民・市民及び近隣市町村の住民	担当	早良区総務部企画課
実施内容	○早良区の秋の見どころ，イベント，味覚等を紹介するパンフレットを作成し，各区役所や区内公民館，観光案内所，博多・天神駅等に設置した。（Ａ４版　16ページ　印刷部数15,000部） ○マスコミ，メディアを活用した広報活動 ○ＲＫＢラジオまつりへ「さわらの秋」ブースとして出店。特産品等を販売し，「さわらの秋」のＰＲを行った。 ○「さわらの秋」体験イベントの実施 ○モニターツアーの実施		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	イベント数	50	66	132%	a
成果の指標	スタンプラリー参加者数	－	463	－	
補足	－				

(7)さわら魅力アップ事業（早良区の魅力情報発信）

目的	区政情報の発信により信頼される区役所となる。地域の見どころや地域活動の情報発信により，多くの住民が地域に愛着を持ち，活動に参加する。区近郊から多くの来街者が訪れる。	H28事業費	2,467 千円
		H29事業費	2,798 千円
対象	市民及び福岡市近郊の住民	担当	早良区総務部企画課
実施内容	①区の魅力を紹介するHP「早良区彩”食”健”美”の玉手箱」内に新規動画・コンテンツを制作した他，地域の催し情報等を随時掲載し,内容を充実させた。 ②区FB「早良区情報玉手箱」では，積極的にイベントや行政情報などを掲載した。また，新たに動画を作成することで，より興味を持ってもらえるように工夫した。 ③地域の見どころや催しを区民が紹介する「よかとこ情報探検隊」の取材記事を区HP及びFBに随時掲載した。 ④全課長を対象に，広報の大切さ，必要性について市長室報道課職員を講師に招き，研修を実施。その後，区FBへの掲載が少ない所属に対し直接働きかけを行った。		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	区フェイスブックに掲載する所属の数	16	17	106%	a
成果の指標	区フェイスブックへの「いいね！」の数	1750	1794	103%	
補足	－				

(8)さわら魅力アップ事業（「サザエさん通り」を生かしたまちづくり・「サザエさん通り」回遊性向上事業）

目的	多くの人に「サザエさん通り」の訪問をきっかけに，周辺地域を回遊してもらい，地域活性化を図る。 「サザエさん通り」の認知度が向上すると共に，長谷川町子氏の足跡が十分認知される。	H28事業費	5,249 千円
		H29事業費	5,472 千円
対象	早良区民(特に「サザエさん通り」周辺住民) 早良区「サザエさん通り」を訪れる人	担当	早良区総務部企画課・地域整備部地域整備課
実施内容	○「サザエさん通り」ウィークの開催：区，地域団体等による事業を集中的に実施 ○「サザエさん，タラちゃん」像再建除幕式の開催 ○ホークス博多どんたくデーでの通りＰＲ ○室見川灯明まつりでのサザエさん灯明をデザイン ○「町子先生とサザエさん」像寄贈・除幕式の開催 ○映画「サザエさんの青春」上映会の開催 ○「サザエさん通り」を生かしたまちづくり推進協議会の開催：２回/年 ○「サザエさん」「マスオさん」の着ぐるみを活用した「サザエさん通り」のＰＲ活動 ○西南学院大学図書館前広場に案内サインを整備		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	サザエさん通りを生かした地域等との共働事業数	10	33	330%	a
成果の指標	市民の認知度	70	84.6	121%	
補足	－				

(9)さわら魅力アップ事業（「サザエさん通り」ハッピーウエディング事業）

目的	待ち時間が無駄で無く，快適に過ごせる様になることを通じて，窓口サービスの満足度向上や「サザエさん通り」の認知度向上を図る。	H28事業費	185 千円
		H29事業費	195 千円
対象	婚姻届を提出するひと 区役所来庁者	担当	早良区総務部企画課
実施内容	○記念撮影コーナーの設置 ○手元に残らない婚姻届の写しが入る「サザエさん通り」ポケットファイルを作成し，婚姻届受理時に配布 ○H28.11.22（いい夫婦の日）にサザエさんとマスオさんの着ぐるみを登場させ，婚姻届を提出したカップルと記念撮影を実施。※婚姻届提出組数：24組，記念撮影実施組数：10組		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	婚姻届件数	1,200	1,002	84%	b
成果の指標	－	－	－	－	
補足	－				

(10)早良みなみ元気応援事業

目的	住民一人ひとりが地域に誇りを持ち，地域資源や課題を認識し，課題解決に向けた事業を自発的に行う地域づくりを目指すとともに，早良区南部地域の魅力を知り，南部地域を体感し，好きになる人を増やし，訪問者数の増加を図る。	H28事業費	1,389 千円
		H29事業費	1,584 千円
対象	早良区南部地域に住んでいるひと 早良区南部地域に訪れるひと	担当	早良区総務部企画課
実施内容	○脊振山系山開きの実施 ○クリーンアップ登山の実施 ○野河内渓谷自然観察会の支援 ＜早良みなみ塾の活動支援＞ ○実行委員会の組織改組 ○早良みなみマルシェの実施：地域からのスタッフ参画約40名 ○クリスマスイルミネーションの実施		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	早良区南部地域活性化に関する地域との共働事業数	4	10	250%	b
成果の指標	イベント集客数	2,000	1,960	98%	
補足	ー				

区のまちづくり目標

西区	自然と大学の知を生かし，安全で安心して，生き生きと暮らせるまち・西区～「自然・市民・大学」の３つの宝を磨きあげる～
取組みの方向性	○自然を生かし，環境にやさしいまち ○にぎわいと楽しさがあり，地域が支え合う，生き生きと暮らせるまち ○大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち ○子どもから高齢者まで，安全で安心して暮らせるまち

1　区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	西区	26,932	(16.2%)	115,406	(69.3%)	24,275	(14.6%)	166,676
H17	西区	28,347	(15.9%)	120,391	(67.3%)	30,026	(16.8%)	179,387
H22	西区	30,181	(15.6%)	126,224	(65.4%)	36,540	(18.9%)	193,280
H27	西区	31,405	(15.3%)	129,439	(63.0%)	44,772	(21.8%)	206,868
H28	西区	31,433	(15.2%)	129,540	(62.5%)	46,385	(22.4%)	208,610
H28	全市	201,397	(13.2%)	998,922	(65.6%)	323,446	(21.2%)	1,553,778

		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯
H12	西区	3,413	(5.5%)	16,385	(26.6%)	61,579
H17	西区	4,375	(6.4%)	19,213	(28.1%)	68,254
H22	西区	5,723	(7.3%)	25,157	(32.3%)	77,880
H27	西区	8,216	(9.3%)	32,347	(36.8%)	88,011
	全市	80,032	(10.5%)	379,499	(49.7%)	763,824

＊H28人口は10.1時点の推計人口。
＊総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。
（資料:国勢調査，福岡県人口移動調査）

自然を生かし，環境にやさしいまち

【現状】と【課題】
・豊かな自然をもつ西区では，都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりが必要。
・地域での環境活動の活発化には，活動のリーダー的役割を担う人材が不可欠であるが，その人材が不足。

【今後】
・人材育成講座による人材の発掘・育成を図るとともに，活動のノウハウ，情報提供等の支援などにより，自立した環境活動を促進。

にぎわいと楽しさがあり，地域が支え合う，生き生きと暮らせるまち

【現状】と【課題】
・校区や地域単位での夏祭りや地域カフェ等の開催，また地域デビュー事業等によって，地域の活性化に対する取り組みが増えているものの，市街化調整区域では，人口の減少や少子高齢化，公共交通機関の減少などの問題が顕著な地域もある。

【今後】
・市街化調整区域のまちづくり活動支援や関係局と連携した協議を継続的に行うとともに，地域だけで実現・実行が困難なまちづくりの取組みについては，地域主導を維持しつつ，支援・助言を実施。

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち	
【現状】と【課題】	・地域と九州大学が直接，連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが，さらに大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かすことが必要。 ＊H28nの九州大学と地域との連携・交流事業数：　４４事業
【今後】	・公民館に九大の学生団体の情報を提供し，大学生と地域との自主的な交流事業開催を促進。 ・九州大学及び地域の魅力づくりや活性化に取り組む学生団体と地域とをつなぎ，地域の特性にあったまちづくりに取り組む。

子どもから高齢者まで，安全で安心して暮らせるまち	
【現状】と【課題】	・全校区に自主防災組織が立ち上げられ，校区･地域によって自主的な避難訓練または避難所運営訓練等が実施されつつあるが，その組織が災害時に実際に対応できる体制となるまでには，さらなる取組みが必要。
【今後】	・地域防災専門員による校区単位の自主的な校区防災計画の改訂を支援するとともに，研修会の開催による住民の防災意識向上，避難訓練の実施等による実践能力向上を図る。 ・地域・警察・行政が連携した防犯組織において，情報共有，連携強化に努め，安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組む。

2　区事業

(1)地域の自治力強化に向けた校区支援事業

目的	自治会・町内会への加入率が上がるとともに，多くの住民が地域活動へ参加し，市との共働のパートナーとしてのコミュニティ自治を確立する。	H28事業費	1,477　千円
		H29事業費	1,795　千円
対象	・校区自治協議会 ・自治会・町内会	担当	西区総務部地域支援課
実施内容	・自治会・町内会長等役員研修の実施 ・自治協議会実務研修の実施 ・自治会・町内会加入促進の支援 ・自治会・町内会長表彰制度の実施 ・西都校区自治協議会設立支援		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	研修会等延べ開催回数	3	3	100%	a
成果の指標	自治会・町内会の加入状況	－	－	－	
補足	※成果指標については，市が4年に1度実施しているアンケート結果を参考にしており，H28nは，アンケート調査を実施していないため実績は未記入。				

(2)西区市街化調整区域のまちづくり活動支援事業

目的	・市街化調整区域及びその周辺地域の主体的なまちづくり活動実施 ・地域公共交通機関の脆弱な地域における交通機関の存続	H28事業費	773　千円
		H29事業費	1,397　千円
対象	・市街化調整区域及びその周辺地域	担当	西区総務部企画振興課
実施内容	・「西部６校区まちづくりプラン」の実行支援 ・地域公共交通機関の確保に関する検討 ・福岡マラソン2016の地域応援に関する支援		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	市街化調整区域のまちづくり活動の支援数	1	1	100%	a
成果の指標	地域の主体的なまちづくり活動実施	1	1	100%	
補足	－				

(3)大学と地域の連携・交流促進事業

目的	住民と九州大学学生及び教職員との連携・交流が促進され，地域のまちづくりに九州大学が貢献する。	H28事業費	1,360　千円
		H29事業費	1,812　千円
対象	・西区住民 ・九州大学学生及び教職員	担当	西区総務部企画振興課
実施内容	・さいとぴあを活用したサークル発表会等の開催支援 ・子ども向けの科学実験事業，農水畜産体験学習事業，航空・宇宙体験学習事業の実施 ・歴史公開講座の実施 ・大学と地域との連絡調整		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	大学と地域との連携・交流事業数（全て）	40	44	110%	a
成果の指標	大学と地域との連携・交流事業数（地域直接のみ）	20	30	150%	
補足	－				

(4)西区防犯対策事業（地域防犯力の強化推進事業）

目的	地域住民自らが主体となって取り組む各種防犯活動を支援することで，市民の防犯意識の向上と街頭犯罪の抑止を進め，犯罪のない街を実現する。	H28事業費	329 千円
		H29事業費	1,562 千円
対象	西区の地域住民	担当	西区総務部総務課
実施内容	・安全安心マップの改訂支援（４校区実施，改訂内容は地域で決定） ・地域防犯パトロールカーの車検支援事業（６校区実施） ・西区自主防犯パトロール立ち上げ及び拡充支援事業（２団体実施） ・防犯活動情報交換会の実施		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	安全安心マップの改訂支援実施校区数	4	4	100%	b
成果の指標	犯罪認知件数(暦年)	1705	1981	86%	
補足	成果指標は実績が目標を下回るほど達成率が高くなる。				

(5)地域自主防災力及び防災・危機管理体制の充実・強化

目的	防災計画の見直しや避難訓練，避難所運営訓練（HUG）等を支援し，市民の防災意識の向上を図ることにより，自助・共助による防災力を強化し，災害に強いまちづくりを推進する。	H28事業費	3,676 千円
		H29事業費	4,973 千円
対象	・各校区並びに西区の防災体制	担当	西区総務部総務課
実施内容	・自主防災訓練等の指導・支援（18校区，29件実施） ・区総合防災訓練の実施 ・情報伝達訓練の実施 ・災害危険箇所の点検 ・自主防災組織支援物資支給事業の実施 ・西区職員土のう作成及び土のう積み工法訓練 ・西区職員救命講習会 ・校区自主防災組織研修会（年2回）		

	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	自主防災組織活動支援物資支給申請校区数	23	23	100%	a
成果の指標	地域での防災訓練等の実施数	23	29	126%	
補足	-				